

学校園の適正規模に関する意見（抜粋）

資料1

分類	意見
適正規模についての意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校園の適正規模について考える上での前提は、岸和田の子どもたちの知・徳・体・調和のとれた人づくりの実現であり、子どもの学び育つ集団としては、一定の人数と集団の変化が必要である
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学1年生から6年生あるいは中学1年生から3年生の間、同じ人間関係で育つことは、生きる力を育む環境としては良くない
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの時からいろいろな考え方や価値観があることを知り、育つことは義務教育においては大切なことである ・ 現状の学校施設を保持したまま、児童数を増やすために、施策に加えて、地域の特性を活かした特色ある学校づくりに取り組んではどうか ・ 学校園の施設の再編整備だけが手段ではない
	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーション能力を付けるためには、多人数で生活することが大切ではないか
合意形成（情報共有）に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を市民に開示し、説明を重ね、「それについてどう考えますか」と問い続けることが大切である ・ 住民に考えてもらうことが非常に大切ではないか
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と学校の結びつきや地域の中で学校が果たす役割などを熟慮して、地域との合意形成がなにより大事である